

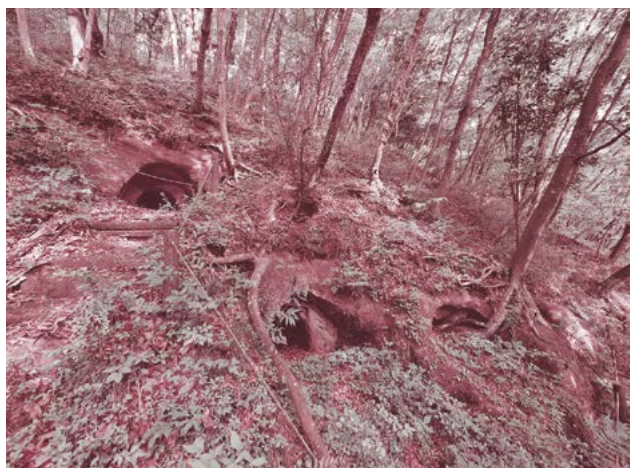


市指定史跡 八田雷神山横穴墓群

車で国道118号線を太子町方面へ常陸大宮市の中心街を抜け、それから国道293号線に左折して少し行くと、左手に「雷神山横穴群」という看板が見えてきます。私は古墳時代のお墓を研究の対象としているので、那須方面に出かけるたびにこの看板が気になります。

「横穴群」とは、古墳時代から平安時代の横穴墓（「横穴」と表記される場合もある）が密集している遺跡の名称です。横穴墓とは、丘陵斜面に洞窟のような横穴を掘り、そこに亡くなった人を埋葬するお墓です。茨城県内では100遺跡、約1400基の横穴墓が確認されています。横穴墓が造られた地域は、県央から県北地域に多く、県南・県西地域にはほとんどなく、分布に偏りがみられます。また、県北地域の分布を詳細に見てみると、太平洋沿岸と久慈川流域に多くが存在しております。常陸大宮市には「雷神山横穴墓群」と「岩穴横穴墓群」の2つの遺跡があり、合計10基の横穴墓が確認されています。これらの横穴墓群は、県北地域ではもっとも海から離れた西の端に位置している横穴墓群となります。

看板に誘導されて道を進むと、玉川を望む駐車場に到着します。そこから凝灰岩の丘陵斜面を少し登った中腹あたりに、横穴墓が造られて



▲雷神山横穴墓群



稲田 健一氏
考古部会協力員

ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
文化財調査事務所

います。現在確認できる横穴墓は5基ですが、これ以外にも埋没している可能性があります。

5基の横穴墓は1基が上位に、4基がその下に横一列に並んでいます。上位の1基は墓室が最も大きく、平面形は不整形な円形になっています。円形の墓室は県内の横穴墓の墓室としては非常に珍しい形状です。その他の横穴墓は平面形が長方形で、県内ではよく見られる構造です。

はじめに、道端に立つ遺跡の看板が気になると書きましたが、県内の100もある横穴墓の中で、整備され常時見学できる横穴墓は10遺跡もありません。その中でも、横穴墓の遺跡で国道などに案内看板があるものは、この遺跡とひたちなか市の十五郎穴横穴墓群だけではないでしょうか。それ故、横穴墓好きの私としては、もっと注目されてもよい横穴墓群だと思っています。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)